

能
綾
鼓

友枝 昭世

解説

金子敬一郎

セルリアンタワー能楽堂 開場二十五周年記念
定期能七月 — 喜多流 —

二〇二六年
七月四日(土) 午後二時開演(一時三十分開場)

CERULEAN TOWER

能楽堂

NOH THEATRE

解説

金子 敬一郎

休憩(十分)

女御 佐藤 陽

老人の怨霊
庭掃きの老人

友枝 昭世

能 綾 鼓
臣下 大日方 寛

家人 高澤 祐介

大鼓 大倉慶乃助 太鼓 小寺真佐人
小鼓 森澤 勇司 笛 藤田 貴寛

後見 中村 邦生 友枝 真也 金子敬一郎
友枝 雄人 佐々木多門 長島 茂
地謡 内田 成信 香川 靖嗣
大島 輝久 狩野 了一

〈終演予定 午後三時四十分〉

◎綾鼓(あやのつづみ)

筑前国の天智天皇の行在所である木の丸御所の御庭掃の老人が、管弦の御遊の宴に出られた女御を見て、あまりの美しさに恋慕に明け暮れます。帝の臣下から、池辺の桂の枝に鼓を掛けおくから、それを打つ音が御所に聞こえたらもう一度姿を見せようと言う女御の言葉を伝えられた老人は、一晚中懸命に打ち続けませんが、綾絹張りの鼓は鳴るはずもなく、老人は望みの叶えられぬことを怨んで池に身を投げます。〈中人〉従者が老人の入水を臣

下に報じ、老人の執心を慰めるよう臣下に勧められて池辺に至った女御は、「波の打つ音が鼓の音に似る、面白い鼓の音だ」とたちまち狂気の態となります。そこへ池の中から老人の怨霊が出現し自分は今や魔境の鬼となったと告げ、今度はあなたが鳴らぬ鼓を打つてみよと、答を振って女御を責めます。その責め苦は骨をも砕く地獄の火車の責めにも過ぎるほどで、女御に因果の報いを思い知らせた怨霊は、冥途の鬼の姿を見せ、女御に怨みの言葉を残しながら再び池の淵へ身を沈めて行くのでした。

2026年 7月4日(土)

午後2時00分開演
(1時30分開場)

◎チケット申し込み

▶ Bunkamura チケットセンター (10:00-15:00)

▶ オンラインチケット MY Bunkamura

▶ 東急シアターオーブ / Bunkamura チケットカウンター

※営業時間に変更になる場合がございます。最新情報は能楽堂HPをご確認ください。

※都合により公演の一部(出演者・曲目等)を変更する場合がございます。

※公演中止、または主催者がやむを得ないと判断する場合以外のチケットの払い戻しはいたしません。

◎前売開始：2026年4月4日(土) 午前10時より

※Bunkamuraでの一般発売日(4/4(土))は、Bunkamura チケットセンター 初日特別電話およびオンラインチケット MY Bunkamura(PC・スマートフォン)での受付となります。チケットカウンター(店頭)販売はございません。

※数寄屋特別観覧席(食事付)チケットはMY Bunkamuraのみにて販売いたします。

◎料金：S席(正面) 12,000円
(税込) A席(脇正面) 10,000円
B席(中正面) 8,000円
数寄屋特別観覧席(食事付) 36,000円

※未就学児の入場はご遠慮ください。

03-3477-9912(4/4発売日初日特別電話)

03-3477-9999(4/5以降残席がある場合のみ取扱い)

https://my.bunkamura.co.jp/

渋谷ヒカリエ2F (11:00-18:00)

「渋谷駅」国道246号線沿いにそびえる超高層ビル「セルリアンタワー」の地下2階。

